



みなみっ子

30号

令和8年6月22日(月)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

学校教育目標

自立

協働

創造

理科の学習の大切さについて

日本の小学校理科の学習指導要領において、「これからの時代」を見据えて特に重要視されているポイントを整理しました。一言で言えば、これからの理科は「知識の暗記」ではなく、「科学的な探究の見方・考え方を働かせ、自ら課題を解決する力を育てること」が核心にあります。特に重要なポイントは以下の4つです。

1 探究のプロセスの質的な向上

これからの時代、答えのない問いに立ち向かう力が求められます。そのため、単に実験を行うだけでなく、子どもたち自身が「探究のサイクル」を主体的に回すことが重視されています。

問題解決の力:3年生:差異点や共通点をもとにした「問題を見つける」**4年生:**既習の知識をもとにした「予想や仮説を立てる」**5年生:**条件を制御する「検証計画を立案する」**6年生:**データを多角的に捉える「考察し、結論を導き出す」

2 ICT (GIGA スクール構想) の日常的・効果的活用

これからの時代を生きる子どもたちにとって、ICTは文房具と同じです。理科において、デジタルツールの活用は「目的」ではなく「探究を高度化するための手段」として位置づけられています。データの可視化:センサーを用いた一瞬の温度変化や電圧の測定、グラフ化。時間の制御:コマ撮り(タイムラプス)撮影による、アサガオの開花や雲の動きの観察。協働学習:自分の実験結果をクラウド上で瞬時に共有し、クラス全体で比較・考察する。

3 「主体的・対話的で深い学び」の実現

変化の激しい社会では、多様な人と協働して新しい価値を生み出す力が必要です。主体的:子どもが「なぜ?」「どうして?」と知的な好奇心(おや、おや?という気付き)を持つ導入の工夫。対話的:実験結果が予想と違ったとき、お互いの条件の違いを議論し合うステップの重視。深い学び:培った科学的な知識を、日常生活や社会の課題と結びつけて活用できるレベルを目指します。

4 STEMA 教育・SDGs (持続可能な社会の創り手) とのつながり

科学技術の発展と地球環境の保全を両立させる視点は、これからの時代に不可欠です。社会や生活との関連付け:理科で学んだことが、どう社会(防災、減災、ものづくり)に役立っているかを実感させます。環境教育の充実:6年生の「生物と地球環境」をはじめ、自然への畏敬の念を抱き、持続可能な社会の創り手としての意識を育みます。

まとめ:指導者に求められるシフト

これからの理科教育では、教師が前に立って「正解を教え込む」スタイルからの脱却が求められています。「教師は伴走者(ファシリテーター)」となり、子どもたちが「問い」を持ち、失敗も含めて実験を楽しみ、データをもとに議論する場をいかにデザインできるか。これが、これからの時代を生き抜く「科学的リテラシー」を育てる最大の鍵となります。

これからの小学校理科:知識の暗記から「自ら課題を解決する力」へ

